

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4770500132		
法人名	医療法人おもと会		
事業所名	グループホームさくら		
所在地	沖縄県宜野湾市嘉数4-4-10		
自己評価作成日	平成25年8月16日	評価結果市町村受理日	平成25年12月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=4770500132-00&PrefCd=47&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェント		
所在地	沖縄県那覇市曙2丁目10-25 1F		
訪問調査日	平成25年9月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者が安心して生活できるように、笑顔と温かさを基本に接しています。入居者様への支援をより良いものにするために、職員間の情報共有とスキルアップを行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所開設13年目で、家族会も年2回開催され家族との信頼関係を築いている。病院受診も家族と一緒に職員も同行してかかりつけ医との情報交換や医療情報を共有することで家族も安心である。薬の管理も徹底し服用時には二人で確認して誤薬防止に繋げている。モニタリングは毎月行われ、介護計画も6か月毎の定期及び随時の見直しも行われている。より良い個別ケアに取り組む為に、フリー業務の管理者、ケアマネ、看護師、職員全員で担当して食事作りを行っている。事業所理念と職員の理念を掲げて意識づけ、年間計画で研修したい項目や時期も選択でき職員個別の技術向上に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enter)

確定日:平成25年10月15日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム内の見えやすい場所に理念を掲示し、全職員で確認、実践している。	事業所独自の基本理念と3年前に職員の為の基本理念「いつも明るく笑顔での対応」等を掲げた事で、職員も理念を意識するようになり実践に繋がっている。管理者は、地域との関わり、交流が足りないことも課題として捉えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	宜野湾市福祉祭りの作品出品、参加。地元スーパーへの買い物支援等を行っている。	ミニディに月3回看護師を派遣し健康管理を行っている。生徒や学生の体験学習、実習受け入れや自治会のレク愛好会との交流も行っている。日常的に近隣住民や地域との交流は少ないが、地域のスーパーに買い物に出かけている。	法人に自治会加入できるよう働きかけると共に自治会活動や近隣の行事に参加したり地域の方を事業所に招いて知ってもらう等、地域とのつながりに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月3回地域自治会へ看護師を派遣し、バイタルチェック等のボランティアを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にてホームでの支援、現状等を報告し、役所、包括、地域自治会の情報共有を行っている。	会議には市担当者、地域代表、家族が参加し、2か月毎に開催している。5か所の自治会長が運営推進委員で、会議では事業所の現況や事故、ヒヤリハット、外部評価についても報告し情報交換をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	年2回の宜野湾市グループホーム連絡会への参加、情報交換や市の担当からのアドバイス等交流を行っている。	市担当者とはグループホーム連絡会や運営推進会議等で情報交換している。研修案内や事故報告等のアドバイスを受けるなど、日頃より連携を密にしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を通して学び、やむを得ず身体抑制が必要と判断された場合には家族への説明、同意を得て、介護記録への記載、抑制解除に向けてのカンファレンスを行っている。	職員は法人の身体拘束委員会の勉強会に参加し、身体拘束をしないケアを理解している。玄関の施錠は、ドアを閉めると鍵がかかる仕組みの為、屋間はドアを開放している。夜間の四点柵の解除に向けて入居者家族に3か月毎の更新時に説明を行っている。	玄関の施錠が手動の鍵ではないので、災害訓練や実際に夜間帯に火災が発生した場合は避難の妨げになる可能性がある。今後は法人に働きかけて玄関の施錠の取り外しに向けた取り組みを期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム内勉強会、法人全体の勉強会等に参加し学び、職員全体で虐待防止に取り組んでいる。		

沖縄県(グループホームさくら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会にて学び、権利擁護について知識を深めていけるよう学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際、書面、重要事項等の説明を行い入居者様、ご家族が理解・納得した上で、契約・解除等を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回の家族会開催とご意見箱等の設置し、家族会にて話し合いを設けている。	ほとんどの入居者が意思を表出することができ、入居者の声や目の動き、表情等で把握している。年2回の家族会や面会時には、職員から声をかけ家族が要望等を表せる機会とし、家族からの「運動をさせてほしい」との要望には、日々のケアの中で反映させることで答えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例ミーティングにて、全職員からの意見・要望を話し合い、迅速に検討・反映されるように努めている。	月1回の定例会で意見や要望を聞き、職員の負担軽減を図る為、業務を振り分け分担している。食事づくりに管理者、ケアマネ、看護師も含め全職員で関わっている(午前は食事作り、午後は本来の業務)。研修も、職員が受けたい研修、時期を選択出来るようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務負担軽減を常に配慮し、委員会等は職員の力・能力を活かせるように工夫している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体の研修、外部研修への派遣、定例会での勉強会での発表等を実践しスキルアップを図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	介護者研修やガウディ会への参加調整を行い、他事業所の交流を通して知識とモチベーションアップを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様要望・不安等を傾聴し、信頼関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の要望を聞き、ホームのサービス内容、家族支援を説明し、ご家族との信頼関係をづくりにつとめている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	詳細にアセスメントを行い、入居時の様子を注意深く観察し、支援の方向を定めるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な環境づくりと、家事等個々に合った役割を設け、手伝ってもらう。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会、誕生会、行事等ご家族を交えた活動を通し、入居者様が孤立しないように配慮している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方がホームへの面会ができる体制とドライブ等で出身場所への立ち寄りをおこなっている。	馴染みの人や場との関わりは、家族や本人から情報を得て把握に努めている。以前利用していた事業所や馴染みのスーパーに買い物に出かけたり、家族に連絡して仏壇に手を合わせに行くなど継続に努めている。友達が面会に見え、居室で会話を楽しんでいる入居者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事等の席の配慮、余暇活動への声掛けを行い、入居者様が孤立しないように配慮している。		

沖縄県(グループホームさくら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が中止になった場合でも、家族の相談の機会作りに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意向の確認が難しい場合でも、ご家族に以前の暮らしぶりや好み等を情報収集し、入居者様に合った支援に努めている。	日々のケアの中で声掛け把握に努めている。不穏時の対応も職員間で話し合い、支援も家族と共有し統一している。本人や家族から情報を得て、決まったリクライニング機能の椅子で新聞を読むことを日課とし、本人から記事の内容等を話しかけてくる入居者もいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様、ご家族からの情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルチェックや日常の変化に気を付け、入居者様のペースに合した一日を提供している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護支援専門員は入居者様、家族要望、意見を報告し、職員からは介護状況等の情報収集し、介護計画に反映している。	担当者会議に本人、家族、担当職員も参加して要望や意見も介護計画に反映し取り組んでいる。基本的なケアは的確に実施されている。毎月のモニタリング、6カ月毎の定期や随時の見直しも行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	様子の変化等、常に個人記録に記入し、その都度職員間にて情報共有し、迅速に対応している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	要望・意見等がある場合は迅速に検討し、対応するように努めている。		

沖縄県(グループホームさくら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	サービス計画書を作成する前に情報収集を行い、プラン作成に反映している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は基本的に家族対応ですが、場合によっては送迎支援も行っている。定期薬が切れないように前もって家族連絡するようにしている。	入居前から馴染みのかかりつけ医を継続して受診している。要介護度が高くリフト車での通院が求められる為、ほとんどの方の通院に職員が付き添っている。家族も受診に付き添い職員と一緒にかかりつけ医と情報交換を行い日頃から医療情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	主治医との連絡を密に取り、入居者様の状態(情報提供書)を報告するように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院前の情報提供と、退院の際のカンファレンス会議への参加えをしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居相談時にホームにおける終末期の対応や長期入院による退居があり得ることを説明、理解してもらっている。	事業所としての重度化・看取りの方針は明確に示されていない。現状では医療的なケアに対応する体制が整っていない為、これまで病院や施設に移ることが多かった。入居者の重度化に伴い管理者自身は看取りの必要性を認識しているが、具体的な方針等については現在模索している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師を中心に定期的に勉強会を行っている。緊急時のマニュアルを設置している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練の開催(近隣老健合同)、職員による火災時の連絡対応の実践(週2回)行っている。	隣接する老健施設及び小規模多機能事業所と合同で自主訓練・総合訓練を含め年2回実施している。毎週土曜日は夜間想定、日曜日は昼間想定 の訓練を事業所独自で行っている。地域住民の協力体制は得られていない。備蓄は老健施設で準備されている。	

沖縄県(グループホームさくら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全職員接遇を意識し、入居者様への声掛けの仕方等に工夫をしている。	法人の接遇委員会で毎月提示される「接遇標語」を事業所内に掲示して職員全員で読み上げている。居室内にも「入居者の権利」の文書を掲示し、常に入居者を尊重した対応が出来るよう意識づけている。管理者は職員に「自分が対応した理由が説明できるように」と指導している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様が自己決定できる声掛け、環境づくりに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様個々のペースに合わせて生活できるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様の好きな衣類や石鹸などを提供している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事づくりの際の味見や野菜の皮むき等、入居者様の力量に合わせて役割を提供している。	法人の管理栄養士が立てた献立に沿って3食とも事業所内で食事を作っている。食事作りが負担となってきた為、管理者、ケアマネ、看護師、職員全員で食事担当をすることになった。入居者が一連の食事作業に参画する場面は見られなかった。現在全介助の食事支援を受けている入居者が増えてきた為、職員と一緒に食卓を囲んで食べるのが難しい状況である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士によるカロリーバランス作成と水分摂取量チェック表等の摂取量把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア支援を行っている。状態によっては訪問歯科を依頼している。		

沖縄県(グループホームさくら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、排泄パターンを把握、定期のトイレ誘導やおむつ交換を行っている。	一人一人の排泄パターンをチェック表で確認し、出来る限りオムツにしないよう昼夜ともトイレに誘導している。トイレの出入り口には男性用・女性用の表示案内が掛けられ、プライバシーへの配慮が確認できた。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防に入浴の際の腹部マッサージや、おやつ時の乳飲料を提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的に入浴の曜日設定をしている。当日日本人の希望を確認し、曜日変更などの対応をしている。入居者様のペースに合わせ、入浴支援を行っている。	週に2回～3回入浴を支援している。浴室内では職員一人に対応しているが、移乗介助や着替え等においては職員二人で行う場合もある。浴室及び更衣室は広くとられ、ゆったりと落ち着いた雰囲気の入浴できる環境となっている。個人用のシャンプーや入浴剤を使用している人もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ゆっくり休息してもらえるように、居室の空調調整や周辺環境の整備をおこなっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師を中心に服薬管理を行っている。薬の諸注意や効能等はいつでも確認できるように薬ファイルを作成している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の好みを把握し、金魚の餌やり、足浴マッサージや歌など、職員とともに楽しみを行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員、または家族が同行して庭の散歩や他施設への訪問、家族による外食等支援している。	週に1回程度近くのスーパーやショッピングモールにドライブを兼ねて外出している。事業所前が急坂な環境となっているため日常的な散歩を継続して行くことが難しい。現在事業所所有のリフト車がなく、外出時には老健施設や小規模多機能事業所よりその都度借用している。	事業所の周辺環境から入居者自身が日常的に近隣の住民と交流することは難しい。今後は事業所所有のリフト車を準備して、一人一人の馴染みのある人に会ったり馴染みのある場所にいつでも出かけられるよう支援してほしい。

沖縄県(グループホームさくら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在入居者全員が家族管理。ホームでは、お小遣いを預かり金銭出納帳を記入し、買い物支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様の要望にてその都度対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ゆったり安全にくつろげるように配慮、配置を行っている。。	事業所内の共有空間が広く入居者が落ち着ける場所(ソファや椅子等)が確保されている。前面に窓が開放され自然光が直接事業所内に射し込み明るさを感じる。季節を感じてもらえるよう飾り物の内容に変化をつけて入れ替えている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファなどの配置に気を付けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使っていた小物などは自由に持ってきてもらい、できるだけ自宅での心地よい環境づくりをおこなっている。	あらかじめベッド・タンス・洗面台が設置され、一人一人の希望によりベッドの種類やタンスの位置を変えている。家族の写真や花等が飾られ、テレビや洋服等の持ち込みがあるものの、自宅から直接入居した方が少ないためか居室内の私物が少ない印象を受けた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	目に見えてわかるように掲示物にて場所を示したりしている。		